

人にも環境にも優しく畑作物を護る「総合土壌くん蒸剤」

臭化メチル代替剤

キルピ®

一般名/カーバムナトリウム塩

有効成分/ナトリウム

メチルジチオカルバマート 30.0%

性状/黄色水溶性液体

刺激臭が少なく土壌消毒ができます!

使用上の注意事項

⚠ 注意 【効果・薬害等の注意】

1. 土壌くん蒸処理を行う場合は、次のことを守る。

- (1) 本剤は、耕起整地した後に処理すること。特に粘土質土壌や大きな土塊が残っている場合には、効果が劣るので丁寧に実施すること。
- (2) 本剤を施設で使用する場合は、施設内に作物があると薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。特に仕切りが不十分な連棟ハウスで暖房機の使用時には薬害が生じるおそれがあるので使用しないこと。
- (3) 本剤を使用する場合は、重粘土質の土壌や降雨などで土壌水分が多い場合や秋冬期など平均地温が10℃以下になる場合等の残留が懸念される場合は被覆期間を延長するか、ガス抜き耕起を十分にすること。
- (4) 本剤を土壌注入、散布混和、灌水又は土壌表面散布する場合は、土壌が乾燥しているとガスが抜けやすく、効果が出ない場合があるので、処理前に散水し土を握って放すと割れ目ができる程度にすることが望ましい。
- (5) 土壌病害防除および雑草防除に使用するには、本剤の所定量を注入または散布混和、あるいは土壌表面に散布した後、被覆資材等で7～14日間被覆した後、さらに3～10日間経過してからは種又は定植すること。
- (6) 気温の上昇する時期に、本剤を注入して使用する場合は、注入後直ちに被覆資材等で被覆すること。
- (7) 本剤を土壌注入する場合は、注入間隔を出来るだけ狭くするのが望ましい。
- (8) センチュウ類防除に使用する場合は、本剤の所定量を注入した後、被覆または覆土・鎮圧し10～24日間経過してからは種又は定植すること。
- (9) 本剤を土壌に散布混和する場合は、処理後直ちに農業用被覆資材等で被覆する作業体系で実施すること。その際、所定量を水で3倍程度に希釈して散布すると圃場に均一に散布できる。また寒冷地で根雪前に使用する場合は、処理後は覆土・鎮圧でもよい。
- (10) 本剤を灌水処理する場合は、次のことを守ること。
 - ① 処理前の圃場は過剰散水による過湿は避ける。
 - ② 使用する灌水チューブは水平型又は点滴チューブ等を使用し、設置する灌水チューブ間隔は30～50cm程度が望ましい。灌水前に灌水チューブ等の灌水設備は農業用被覆資材等で予め被覆する。
 - ③ 灌水チューブへの薬剤送入には液肥混入器を用いるか、貯水用タンクに水希釈液を入れ灌水ポンプにより送水する。
 - ④ 所定量を水希釈液として灌水処理した後、直ちに1～2mmの降雨程度の後灌水をする。
 - ⑤ 水希釈割合は次を一応の目安とし、圃場土壌水分状態を考慮して適宜増減する。
 - ほうれんそう、きゅうり、すいか、トマト・ミニトマト、いちご、さやえんどう・実えんどう、たまねぎ、ねぎ・あさつき・わけぎ、なす、とうがらし類、メロン、花き類・観葉植物の場合は100倍程度を目安とする。
 - しょうが、みょうが(花穂・茎葉)の場合には20～100倍程度の範囲より選択する。
 - にはらの場合には20～100倍程度の範囲より選択する。
 - ⑥ 液肥との混用は避ける。
 - ⑦ クロルピクリンとの混用は避ける。
- (11) 予め被覆した内で土壌表面散布する場合は、被覆期間は7～21日間とし、被覆除去後に3日間以上経過してからは種又は定植すること。
- (12) 花き類・観葉植物に使用する場合、本剤はフザリウム菌及びリゾクトニア菌による病害に対し効果があり、同じ病名であっても病原菌が異なるものもあるので注意すること。
- (13) かんしょ、きく等挿し苗で定植する作物に本剤を使用する場合は、薬害を生じるおそれがあるので、被覆期間を延長するか、ガス抜き耕起を十分にすること。
- (14) たまねぎ苗床土に土壌表面散布する場合には、所定量を水で5～20倍程度に希釈し、15～20cmの高さに積み上げた土壌表面に均一に散布し、農業用被覆資材等で被覆すること。
- (15) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。特に適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

② 本剤使用後の器具の金属部分は腐食される場合があるので、十分に水洗する。

③ クロルピクリン、D-D及び両者の混合剤とは化学反応を起こし、発熱または沈殿を生じ、器具の孔詰まりを生じる場合があるので、これらの剤とは混合して使用しない。またクロルピクリン、D-D及び両者の混合剤を使用した器具は灯油などで十分洗い、乾燥して本剤を使用する。また本剤を使用した後は、器具は必ず水洗し乾燥した後に使用する。本剤が器具中に残っていると他剤を加えることのないように注意する。

⚠ 注意 【安全使用上の注意】

【魚毒性等】本剤は水産動物に影響を及ぼすが、通常の使用方法では問題ない。
【保管】直射日光を避け、食品と区別し、なるべく低温な場所に密閉して保管する。

- (1) 誤飲などないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当てを受けさせること。本剤使用中に身体の異常を感じた場合には直ちに医師の手当てを受けること。
- ① (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないように注意すること。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けること。
- ① (3) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないように注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 土壌くん蒸処理の際は保護メガネ、農業用マスク、不浸透性手袋、ゴム長靴、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
- (5) 灌水装置による処理を行う場合は、次のことを守ること。
 - ① 薬剤注入器(液肥混入器)はハウスの外部に設置すること。
 - ② 薬剤の希釈作業及び灌水装置取扱いの際は保護メガネ、農業用マスク、不浸透性手袋、ゴム長靴、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
 - ③ 薬剤処理中はハウス内に入らないこと。また薬剤処理終了後は、散水及びハウス側面の開放を行い、十分換気した後に入室すること。
- ① (6) 苗床土に土壌表面散布の際は、吸収缶(活性炭入り)付き全面面体防護マスク、不浸透性手袋、ゴム長靴、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。処理後のシート除去の際にも吸収缶(活性炭入り)付き全面面体防護マスクを着用すること。
- (7) 作業に際してはガスに曝露しないよう風向き等を十分考慮すること。
- (8) 作業後は直ちに手足、顔など石けんでよく洗い、洗顔・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (9) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。



メガネ使用



マスク使用



手袋着用



苗床土に土壌表面処理する場合

・使用前にはラベルをよく読んでください。 ・ラベルの記載以外には使用しないでください。 ・本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

適用病害虫・適用雑草及び使用目的と使用方法

作物名	適用病害虫名・適用雑草名・使用目的*	使用量 (原液としてL/10a)	使用方法		使用時期	本剤の 使用回数	カーバム ナトリウム塩を 含む農薬の 総使用回数
			方法番号	方法			
たまねぎ	苗立枯病(リゾクトニア菌)	80ml/m ²		所定量の薬液を積み上げた土壌 表面に散布し直ちに被覆する	は種又は 定植の 10~24日 前まで	1回	1回
	乾腐病	60	A B				
ほうれんそう	黒腐菌核病、一年生雑草	60	A				
	株腐病、立枯病、 ホウレンソウケナガコナダニ、一年生雑草	60	A				
ねぎ わけぎ あさつき	萎凋病、一年生雑草	40	B C				
	白絹病、一年生雑草	40	C				
はくさい	根こぶ病、根くびれ病、黄化病、一年生雑草	40~60	A C				
	根腐病	60	C				
レタス 非結球レタス	ネグサレセンチュウ、一年生雑草	40~60	C				
	ビッグベイン病、すそ枯病、一年生雑草	60	A				
チンゲンサイ	根腐病	60	C				
	萎黄病	40	A				
にら	ネコブセンチュウ	60	C				
	乾腐病、一年生雑草	60	A B				
	葉腐病	60	A				
	ネグサレセンチュウ、一年生雑草	60	C				
きゅうり	古株枯死*	60	B C				
	ネダニ蔓延防止*	60	B				
すいか	苗立枯病	40~60	A				
	つる割病、一年生雑草	40~60	A B C				
かぼちゃ	ネコブセンチュウ	40	C				
	ネコブセンチュウ、一年生雑草	40	C				
メロン	ネコブセンチュウ	40	C				
	ネコブセンチュウ、一年生雑草	40~60	C				
ピーマン とうからし類	苗立枯病、一年生雑草	60	A				
	萎凋病	60	A B				
	半身萎凋病	60	C				
かんしょ	ネコブセンチュウ、一年生雑草	40~60	C				
	つる割病	60	A				
にんじん	しみ腐病、ネコブセンチュウ、一年生雑草	40~60	A C				
	萎凋病、一年生雑草	40~60	A B C				
トマト ミニトマト	半身萎凋病、ネコブセンチュウ	40~60	A C				
	一年生雑草	40	C				
なす	半身萎凋病、ネコブセンチュウ	40~60	C				
	半身萎凋病、苗立枯病、一年生雑草	60	A				
	半枯病	60	B				
こんにゃく	ネコブセンチュウ、一年生雑草	40	C				
	根腐病	40~60	A C				
ごぼう	乾腐病	60	A				
	乾性根腐病、一年生雑草	60	A				
さといも	ネグサレセンチュウ、一年生雑草	40	C				
	ネグサレセンチュウ、一年生雑草	40	C				
やまのいも	乾腐病	60	A				
	ネコブセンチュウ	40~60	C				
ばれいしょ	根腐病、一年生雑草	60	A				
	そうか病、一年生雑草	60	C				
だいこん	ネグサレセンチュウ	40~60	C				
	ネグサレセンチュウ	40~60	C				
いちご	パーティシリウム黒点病、一年生雑草	40~60	A C				
	萎黄病、一年生雑草	60	A B C				
みょうが (花穂)(莖葉)	ネグサレセンチュウ	60	C				
	根茎腐敗病、一年生雑草	60	A B				
しょうが	根茎腐敗病、一年生雑草	60	A B				
	ネコブセンチュウ、一年生雑草	60	C				
にんにく	乾腐病、イモグサレセンチュウ、一年生雑草	60	A				
	かぶ	40	C				
さやえんどう 夷えんどう	萎凋病	60	B				
	苗立枯病(リゾクトニア菌)、一年生雑草	60	A				
キャベツ	パーティシリウム萎凋病	60	A				
	根こぶ病、一年生雑草	40~60	A C				
ブロッコリー	ネコブセンチュウ	40~60	C				
	一年生雑草	40~60	A				
花き類 観葉植物	フザリウム菌による病害(萎凋病、萎黄病、 球根腐敗病、腐敗病、葉枯病、立枯病、乾腐病)	60	A B				
	リゾクトニア菌による病害(苗立枯病、 茎腐病、葉腐病、腰折病、株腐病、立枯病)	60	A				
	ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウ、 一年生雑草	40~60	C				
しゃくやく(薬用)	根黒斑病	60	C				
たばこ	ネコブセンチュウ	40	C				
	立枯病	60	A				

A 散布混和
所定量の薬液を土壌
表面に散布し、直ちに
混和し被覆する

B 希釈散布/灌水
予め被覆した内で、
所定量の薬液を水で
希釈し土壌表面に
散布または灌水する

C 注入
所定量の薬液を土壌中
約15cmの深さに注入し
直ちに被覆または
覆土・鎮圧する

前作終了後から
は種又は定植の
10~24日前まで

は種又は
定植の
15~24日
前まで

2011.09.28 現在

製造 **Buckman** バックマンラボラトリーズ株式会社

販売



日本曹達株式会社

本社 〒100-8165 東京都千代田区大手町2丁目2番1号
TEL. (03) 3245-6178 FAX. (03) 3245-6084
ホームページアドレス <http://www.nippon-soda.co.jp/nougyo/>

大阪支店 TEL (06) 6229-7343 東京営業所 TEL (03) 3279-6961
札幌営業所 TEL (011) 241-5581 名古屋営業所 TEL (052) 238-0003
仙台営業所 TEL (022) 227-1741 福岡営業所 TEL (092) 771-1336
信越営業所 TEL (0255) 81-2323 松山営業所 TEL (089) 931-7315

(321-1110ST)